

009

From Editor

011

表紙の時計／クロノメトリ―フェルディナント・ベルトウグクロノメーターFB2RE

012

Editor's Choice!

ローマン・ゴティエ インサイトマイクロター・スケルトン

H・モーザー ストリームライナー・フライバッククロノグラフ オートマティック

ブライトリング クロノマット B0142 タグ・ホイヤー カレラ キャリバー・ホイヤー02 スポーツクロノグラフ

ベル&ロス BR 05 クロノブルースティール／カール F. ブヘラ マネロ フライバック

018

世界は時計で回っている。

020

ショパール ミッレ・ミリア2020年モデル

022

ユリス・ナルダン ブラスト

024

「X」をテーマに進化を遂げたトゥールビヨン装備のスケルトン

026

ポルシェ・デザイン・スポーツ・クロノ・コレクション

032

「スポーツ・カーのための時計」から生まれた新コレクション

037

シャウボーグ ムーン・アヴェンチュリン

045

天空の月を手元で確認できるムーンフェイズ・ウォッチの魅力

032

オメガスピードマスター・ムーンウォッチ321ステンレススティール

038

現代的なスペックに進化を遂げたCar 321搭載モデル

037

オーデマピゲ CODE 11.59 バイオーデマピゲ

037

ブランドの根幹で脈打つ「創造の精神」を未来に継ぐ懸け橋

037

ロレックス2020年新作

045

「より良く、より美しく」を求めて

045

ロレックスは9月1日に新作を世界一斉に発表し、一部は同日に発売をした。全面的なリニューアルを果たした

045

「オイスターパーペチュアルサブマリーナー」や、カラフルな文字盤を揃えた「オイスターパーペチュアル」など主要な新作をみてみたい。

045

2020年ブランド別新作情報 パート3

045

毎日と共に過ごす好きな時計を求めて

045

恒例の「パーゼルワールド」や「ウォッチ&ワンダーズジュネーブ(旧SIHH)」が中止となった2020年は異例な年であった。

045

年間に数回に分けて新作を発表した時計メーカーも多い。ここでは2020年後半に発表された23メーカーの新作の概要を取り上げた。

068	ロンジン 2020年新作 冒険家とともに語られた時計たちに敬意を表して
072	ティソ・ヘリテージ・バナナ 強い主張があるからこそ「楽しきかな」バナナ・ウォッチ
074	カシオ 2020年新作「MT-G」・「Gショック」・「オシアナス」 「カラー、マテリアル、フィニッシュ」を軸に新作を開発 カシオは初めてオンラインでの新作発表を行った。実際に時計に触れることはできないが、開発者たちがそれぞれの新作のポイントを説明し、製品を紹介した。MT-G、G-ショック、オシアナスの3つのラインに登場した主要な新作をみてみよう。
082	シチズン 2020年新作「チタニウム技術50周年記念モデル」・「ザ・シチズン」 外装とムーブメントの両面で技術開発の進化を語る新作 シチズンは一部のメディアに向けて個別に今年後半に発売する新作を紹介した。話題のひとつはチタニウム・ウォッチ発売から50周年を迎えた記念モデルであった。また年差±1秒の高精度クォーツ・モジュールを搭載した「ザ・シチズン」にはSSケースが加わった。
085	オメガスピードマスター シルバースヌーピーアワード 50周年記念モデル
086	オーデマピゲ CODE 11.59 バイオーデマピゲフライングトゥールビヨンクロノグラフ
087	オーデマピゲ CODE 11.59 バイオーデマピゲグランドソヌリカリヨンスーパーソヌリ
088	ルイ・ヴィトン タンブール
089	ウブロ ビッグ・バン オールブラックカモ ヨウジヤマモト
090	タグ・ホイヤー カレラ キャリバーホイヤー02 クロノグラフ
091	トム・フォード オーシャンプラスチックタイムピース
092	ショパール LUC XP イルサルトキートン
093	ラドー トゥール・スクエア
094	オリス アクイスデイトキャリバー400
095	新製品情報
103	日新堂 パテックフィリップを知悉した店舗ならではの矜持とサービス
104	モンブラン ブランドキャンペーン「What Moves You, Makes You」
105	ブライトリング スポットライト・スクワッド
106	112 インフォメーション／問い合わせリスト／次号予告

ユリス・ナルダン グラスト

「X」をテーマに進化を遂げたトゥールビヨン装備のスケルトン

1980年代に機械式時計復活の立役者の一社であったユリス・ナルダンは今日までユニークな視点で機械式時計の発展に寄与してきた。そして現在は2017年にCEOに就任したパトリック・プルニエ氏の下、今日までに築いたものを礎にダイナミックに変貌を遂げている。



ファイアを表現した「ブラック グラスト」。ブラック・セラミックス製のミドル・ケースとベゼルに、ガルバニック加工のブラックの長方形ブリッジとPVD加工の赤のXブリッジ、PVD加工の赤のテンワを備える。ケース内周には赤のパッキンが取り付けられた。ラバー製ストラップが付く。価格586万3000円。

昨年のSIHHでユリス・ナルダンは「X」を基本テーマに掲げることを発表した。これはXploration(探検)、Xtraordinary(並外れた)、Xtreme(極限)、complex X(複雑)などのXを表し、大胆な創造や冒険を意味する。そして時計製作にはXファクター(未知の要素)、すなわち既存モデルには見られない要素を取り入れる試みを行い、企業活動としては極限に挑む冒険のサポートに着手した。氷河の上や竜巻の内部、火山の火口近くといった極限での撮影に挑む自然写真家のカーستن・ペーター氏とのパートナーシップもそのひとつである。また昨年には4年に1度行われるセーリング・レースの「ヴァンデ・グロープ」のスポンサー、そしてオフィシャル・タイムキーパーに就任した。このレースは単独、無支援、無寄港、無補給で世界一周を行う、というセーリング・レースのなかでも最も過酷なものと言われる。今年は33人のスキッパーが単胴船で11月8日にフランスのレ・サール・ドロンヌを出港した。

さてXコンセプトに基づいて開発された最新作が「グラスト」であり、4モデルが8月末に開催された「ジュネーブ・ウォッチ・デイズ」でお披露目された。グラストは火山の爆風に象徴される自然の強大な力を意味している。

2018年に発表された「スケルトントゥールビヨン」を進化させたもので、文字盤と裏蓋側の両面にはX型のブリッジが置かれた点特徴のひとつだ。もちろんXファクターを表したものが、ムーブメントを挟み、固定する役割を担う。また文字盤の中央には「スケルトントゥールビヨン」と同様に長方形のブリッジがXの上に配される。

搭載する自動巻きのCal. 1772はスケルトントゥールビヨンに装備される手巻きのCal. 1771の発展形で、ユリス・ナルダンのスケルトン・コレクションでは初のマイクロローター式自動巻きであると同時に、トゥールビヨンを装備した初の自動巻きムーブメントでもある。マイクロローターは文字盤の12時位

オメガ・スピードマスター・ムーンプウオッチ321ステンレススティール

現代的なスベックに進化を遂げたCal. 321搭載モデル

スピードマスター・ファンにとって2020年の話題はCal. 321の復刻であった。まずプラチナ・ケースの限定モデルが登場したが、本命はやはりステンレス・スチール・モデル。その待望のSSが日本市場に入荷を始めたので、さっそく旧作との比較を試みた。



右が今回のベース・ウォッチとなったCal.321搭載のスピードマスターで、左はマイナー・チェンジを受けてプロフェッショナルの名称が追加された1967年モデル。ラグの形状や12時の文字、プレスレットの幅にも注目されたし。ケース・サイズや右側のガードだけでなく、プッシュ・ボタンも直径が4.0mmから4.5mmへと拡大され、指先が感じる押し心地も変化した。

それは25年近く前のことである。スウ

オッチ・グループ・ジャパンの前身であるSMHジャパンの上野ファクトリーの2階の工房に、菊池さんというオメガの時計師がいた。小柄で人当たりが良く、知識が豊富な氏は、誰彼からとなく「ミスター・オメガ」と呼ばれており、その当時オメガ・スピードマスターにぞっこんだったこともあって、国内に限らずアメリカやスイスなどで購入した「古物」は、すべてその菊池さんに診てもらうのが常だった。また、一級時計修復士の資格を取得する前だったこともあり、有難いことに空き時間にはそのCal. 321やCal. 861を実際に分解してもらうとともに、幾度とはなしに各部の機構をじっくりと解説して貰うことができた。

ちなみに当方のお気に入り、Cal. 321搭載モデルでは、第2世代のRef. CK2998と、まだ「スピードマスター」の名称が加わる前で、クラウン&プ

ッシュ・ガードをもたないRef. STI

05.003、いわゆるCal. 861系では1969年のアポロ11号記念限定モデルのRef. BA145.022、そしてはじめて新品を購入した1985年の限定モデル、Ref. 345.0809「ムーンプイズ」だった。言うまでもなく、これらをはじめ、ほとんどすべてのモデルをミスター・オメガの手でオーバー・ホールをして貰ったが、驚くなれその仕上がり精度は321が+8秒以内で、861ではすべてのモデルが+5秒以内に収まっていた。

感激したのは2000年代のはじめに、購入したてのCal. 861搭載モデルを腕にして遊びに行ったところ、どうにも精度が気に入らないようで「もし良ければ、ちょっと預かりたいのですが……」とひとこと。そして、後日工房を訪れた時には「どうしても精度が出なかったの、最後には天真の交換をしました」と、

オーデマピゲ CODE 11・59 バイ オーデマピゲ

ブランドの根幹で脈打つ「創造の精神」を未来に継ぐ懸け橋

オーデマピゲの次世代を担うキー・コレクションとして2019年に登場したCODE 11・59 バイ オーデマピゲ。今年の色や装飾美に重点を置いた新作も加わったが、改めて同社開発ディレクターのルカス・ラッジ氏に開発の経緯と特徴を伺った。



右は1917年に作られた八角形のケースのレディース・ウォッチ。中央はラグの形状に特徴がある1945年製のミニット・リピーター、左は1951年製のミニット・リピーターで、これら2点は正面から見るとシンプルなラウンドだが、サイドから見るとラグに特徴があり、このスタイルがCODE 11・95 バイ オーデマピゲに踏襲された。1951年製の時計のインデックスは書体のヒントともなった。

2019年のSIHHでオーデマピゲはまったく新しいコレクションであるCODE 11・59 バイ オーデマピゲを発表した。それはデザインにもムーブメントにも新機軸が盛り込まれ、「オーデマピゲの次世代を切り開く」という役割を担った、大がかりなプロジェクトであったことを感じさせるには十分だった。

CODE 11・59 バイ オーデマピゲのプロジェクトは2012年に現CEOのフランソワ・ベナミアス氏の号令一下で開始された。ベナミアス氏はこの年の5月に暫定CEOに就任したが、その直後に社内各部署のトップクラス約40人をひとつの部屋に集合させた。そして「コンテンツポラリーな時計の新しいコンセプトと、それらに搭載するムーブメントの技術的な特徴を決めること」を命じ、これが決まるまではひとりも外に出さなかったという。そのときの張りつめた空気が想像に難くないが、彼らは意見を出し合い、新しい自社製

自動巻きや一体型クロノグラフの開発、そして現代にふさわしい斬新なデザインの創造というプロジェクトの基本を決定した。

CEO主導のスタートだったが、その後は全社に協力体制が敷かれた。オーデマピゲのル・ブラッシュの工房、複雑時計の開発・製造を担う、オーデマピゲル・ロケット工房、そしてケース製造という3つの製造拠点からおおよそ100名が関わり、2019年の発表を目指して開発に乗り出した。

コレクションの名称は社内イントラネットを通して、世界各国の全社員がアイデアを出すことができたという。そしてひとりが提案したCODE 11・59をプロジェクトの専門委員会が採用。その後C = Challenge(挑戦)、O = Own(継承)、D = Dare(追求心)、E = Evolve(進化)、そして11・59 = イレブン・フィフティナインは新しい1日が始まる1分前の11時59分、と意味づけられた。

ロレックス 2020年新作

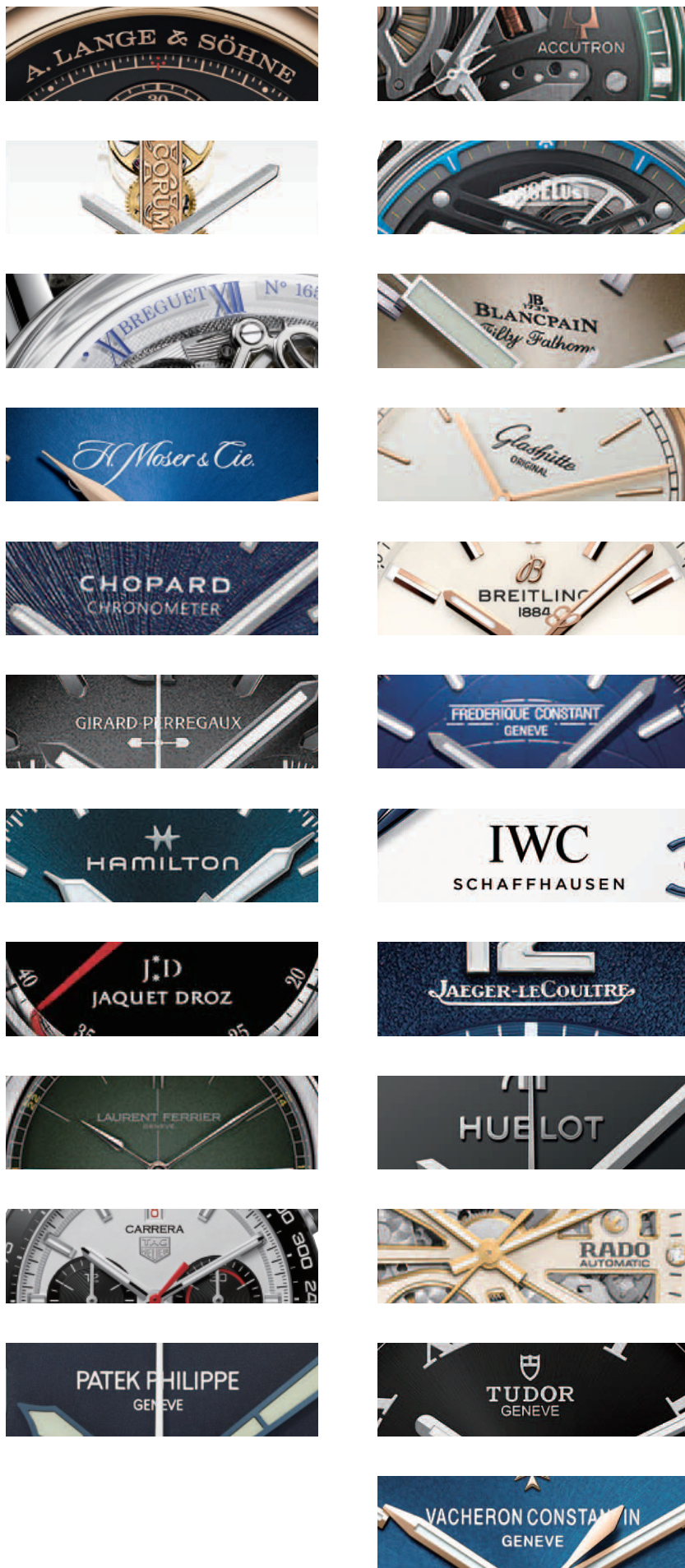
「より良く、より美しく」を求めて

ロレックスは9月1日に新作を世界一斉に発表し、一部のモデルは同日に発売するという、従来とは異なる形式の新作発表を試みた。これはもちろん新型コロナウイルスの感染拡大によってバーゼルワールドが中止となった結果だが、それによって慣習として行われてきた方式を見直し、新たな方法を探るきっかけともなり、今後の新作発表のあり方が注目される。さて今年には新キャリバーを搭載した「サブマリーナー」やカラフルな文字盤の「オイスターパーペチュアル」などがお目見えした。その概要をみてみたい。



2020年ブランド別新作情報パート3

毎日と共に過ごす好きな時計を求めて



今年1月に「LVMHウォッチウィークドバイ」が開催された直後から新型コロナウイルスの感染が世界的規模で広がり、バーゼルワールドもウォッチ&ワンダーダーズジュネーブも開催中止という異例な年となった。しかしこれは時計メーカーにとっては新作発表の在り方を模索するきっかけともなったようだ。そして多くが発売時期に合わせて新作の情報を解禁した。今年後半に発表された23社の新作をみてみたい。

カシオ 2020 年新作 MT-G、G ショック、オシアナス

「カラー、マテリアル、フィニッシュ」を軸に新作を開発 MT-G-B2000



「MTG-B2000BD」。ケース・サイズ縦55.1mm×横51.0mm×厚さ15.9mm。タフソーラー(ソーラー充電システム)クォーツ。標準電波 6 局受信 + モバイルリンク機能。ストップウォッチ、時刻アラーム、デュアルタイム、パワーセービング機能、フルオートカレンダー、LEDライト、日付・曜日表示機能。レイヤーコンポジット・ブレスレット。20気圧防水。価格13万7500円。

カシオは今年後半に発売する新作をオンラインを通して発表する、という初の試みを行った。主要な新作の開発担当者が約10分間、開発のポイントや経緯を説明し、実際に時計を見ることができないものの、概要を知ることができるという点では有意義であった。ここでは新作のなかから、G ショックとオシアナスの主要なモデルをみてみたい。

カシオは昨年から製品開発のキーワードとして「カラー、マテリアル、フィニッシュ」(色、素材、仕上げ)を掲げているが、新作にもこれら3つの要素を見ることができるといえる。

新作のなかの主力が MT-G-B2000。ステンレス・スチール製のコアガード構造とカーボン繊維強化樹脂のケースを組み合わせた「デュアルコアガード構造」が初めて採用された。これはケースと裏蓋を一体化させたカーボン繊維強化樹脂製のモノコックケースと、ステンレス・スチール製のベゼルとフレイムの3つのパーツで構成され、モジュールを納

めたカーボン繊維強化樹脂ケースをメタル・フレイムにセットし、それをベゼルで蓋をする構造になっている。

今まで MT-G に用いられてきた「コアガード構造」では裏蓋からベゼルまでが連結したメタルの箱のなかに、カーボンファイバー強化樹脂ケースを納める構造だった。一方、デュアルコアガード構造ではメタル製の裏蓋を備えないため、既存の MT-G-B1000D の重量が182g であるのに対して、新作では約156g に抑えられた。さらに多角形のベゼルが別体であることから、ベゼルのみに IP 処理で着色することが可能になり、レッド、ブルー、ブラックが登場した。また従来の MT-G に見られる樹脂製の太ぶりなりユーズガードが縮小され、デザインもすっきりとした。もちろん G ショックの持ち前であるタフネスはいままでもなく、衝撃、遠心力、振動に耐える強化構造の「トリプル G レジスト」を備える点は変わらない。

ブレスレットはステンレス・スチールのパーツの裏側にファイバーグラスを組み

KESAHARU IMAI
Publisher

TOMOKO KAYAMA
Editor in Chief

KAZUO TSUBOI
Advertising Director

SHUNSUKE OGAWA
Production Director

HIROSHI SASAGAWA
Circulation Manager

DTP
BASE

Correspondent
Washington, D.C. Bureau
(Pictorial Press International)
Mikako Burks

Cover Photo/
Shizuo Ono

●本誌に掲載されている価格は
令和2年11月30日現在の調べによるものです。
本文中の価格は消費税(10%)込みの総額表示
です。
© WORLD PHOTO PRESS 2021

【特集】2020年〜2021年の 新作をレポート

例年とは全く異なる状況となった2020年でしたが、それは「変わるべきこと」に拍車をかける結果になったともいえます。新作発表の方法も必然的に変わらざるを得なくなり、各メーカーはオンライン、あるいは国内で少人数での個別取材という形で新作を披露しました。2021年はすでにウォッチ&ワンダーズジュネーブはオンラインでの発表に切り替えることを発表し、2020年と同様の状況が続きます。そうしたなかで日本は重要な市場として注目され、優先的に新製品が供給されています。日本市場にお目見えした注目の新作を取り上げます。

「世界の腕時計」第147号は2021年3月8日発売予定です。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします！

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,704円(税込)**
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

- フリーダイヤル 富士山 富士山
- お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**
 - インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoutedokei>
 - 携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoutedokei>
 - QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター
パソコンサイト: <http://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合: cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承ください。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承ください。

ワールドフォトプレス ホームページ <http://www.monomagazine.com>

WORLD **M**OOK

ワールド・ムック1237

世界の腕時計

No.146

令和3年1月15日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部…………… ☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部…………… ☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部…………… ☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所…………… 大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。